

毎日が、至福

2018年6月1日

読者の皆さん

おそらくあなたは気づいたでしょう —— 6月が近づくと、空がだんだんとピンク色になり、あたかも半透明の青色の小さな池にサンゴ色の顔料がさっと浸されたかのように感じていることに。それは日の出と日の入りに認められ、その色は回りながら広がり、私たちをあらゆる場所でくつろがせます。しかしながらそれは希釈されていくかわりに、どういうわけかもっと濃くなりもっと鮮やかに現れます。時々、私たちの頭上にあるこの大きなキャンバスでさえも、そのように咲き誇る色を支えることはできるのだろうか、そのような抑えきれない喜びを受け止めることができるのだろうかと考えます。そして分かるのです。一年のこの時期、この空ささえもそれ自身を抑えることはできないということを。何しろお祝いの月なのですから。ジャンマデインの月、私たちの愛するグルマーイの誕生日なのですから。

ハッピー、ハッピー、バースデー・ブリス(誕生日の至福)！

6月24日のジャンマデイン、すなわち偉大な日のためのお祝いと準備を始めるに当たり、私は気が付くと、幾つかの問いにじっくりと思いを巡らせています。例えば、水はなぜ濡れているのか、絹を柔らかくしているものは何か、バラを香らせているものは何か、赤色のその特徴的な鮮やかさはどこから来るのか。深く沈潜することで見つかる、最も心が高揚する大きな幸せの中心にある静けさ、深い感情、たとえつらさをもたらすような感情の中にさえ見られる静寂と空間は何なのか。

このような問いを提起することは非常に価値あるものになり得ると私は学びました。これらの問いは、グルマーイの存在、彼女の教え、そして彼女の恩恵が、この世界にとって、また私

自身の人生にとって何を意味するのかという私の理解と、それをより明確にするための方法を探る手助けとなります。実際、言いたいことはもっとたくさんあります。たくさんの詩が思い浮かびますし、うっとりするような長い散文を私のペンから流れ出させることもできます。しかし今は、これだけをお伝えしましょう。グルマーイのおかげで——多くの皆さんと同じように彼女を自分のグルと呼べる素晴らしい運命を持ったのおかげで——私は実在するものの本質をよりつかむことができるようになってきたのです。

グルマーイは今年のメッセージの講話の中で、サツチャラサという言葉私たちに与えました。サツチャラサとは単に大いなる真理を示すのではなく、アンブローシア、つまりその真理の持つ味わいや特性をも示すものです。そしてそれは、私たちが人生の中に見だし引き出すようにとグルマーイが教えているものが何なのかを言い表す完璧な方法ではありませんか。サツチャラサは、純粹で、汚れのない、そして豊かな質感を持った何かを思い起こさせるものです。水晶のように澄み切っているながら素晴らしく豊かで、6月の空のような何かです。その言葉自体が、サツチャラサは単に遠目から調べ、研究し、理解されるだけのものではないことを明らかにしています。そうではなく、それは私たちの内側のいろいろな感覚を目一杯使って楽しみ、喜ぶべきものであり、そして、他者に向かってもあふれ出すものなのです。

何か月か前、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムのアヌグラハのビルの下のロビーに歩み入った時のことです。夕方に近い時間で、空は明るく晴れ渡り、光が窓から降り注いでいました。中に入ると、グルマーイがロビーの一方に立っているのが見えました。そこにはさまざまな植物や花と一緒に並んでいました。グルマーイと共にセーヴァイトが一人いて、植物をあちらこちらへと動かしていました。

私が近づくと、グルマーイは私に笑顔を向けて、「私たちは小さな樂園を創っているのです」と言いました。

見るからに薄い錬鉄で作られた精巧な台が、幾つかの小さなテーブルと一緒に植物のそばに置かれていました。おそらく、目を楽しませてくれるような景色を作り出すために、そのセーヴァイトはこれらの上にさまざまな植物を置いたり動かしたりしていました。私も手伝い始め、間もなく、他のセーヴァイトたちもやって来ました。私たちは一緒に、植物をあちらへ、こちらへと動かし、落ちた葉っぱを拾い、数分ごとに頭を傾けては、並べたものがどのように見えるのか見渡し、必要に応じてさらに動かすことを繰り返しました。グルマーイは私たちの近くに立って、この植物はここに、あの植物はあちらにと指示しながら、私たちの作業を導いていました。そして再び彼女は、「私たちは小さな楽園を創っているのです」と言いました。

作業を終えた時、私たちは1歩後ろに下がって、自分たちが創り上げたものを見てみました。以前は窓に沿ってあちこちに置かれていた植物が、今や魅力的な雰囲気で一角に集められていました。私たちは小さな庭園、緑の生い茂るオアシスを、ロビーの一隅のまさにその場所に創り上げたのでした。それぞれの植物の動きやその性格が急に、なぜかもっとはっきりと表れていました。植物の中の一つの際立って赤い葉や、クチナシの木の枝の緩やかにしなった様子に気づくようになりました。それぞれの植物から絡み合っただけの匂い立つ香りもどこか特別でした。本当に人を酔わせるような、少し前とは全く異なる感じでした。その香りは波となって私たちの方に漂っていました。

この体験は、良い実例として私の中に長くとどまりました。これらの植物はすべてこれまでもロビーにありました。台やテーブルも近くから持ってきたものでした。それでもグルマーイの導きによって、そしてほんの少しの努力によって——持ち上げたり、動かしたり、見直したり、調節したりして——驚くほどの美しさと香りの空間、いつもは目に見えない私たちの世界の黄金色の裏地が垣間見えて、通り過ぎる人々に少しでもこれまで以上の喜びを与えてくれるような空間を、私たちはそれらの材料から引き出したのです。その後、私は気づいたのです。これはグルマーイがいつも教えていることではないかということ。私たちそれぞれがどんな

状況にあらうと、小さな楽園 —— 小さなサツチャラサ —— は、いつも私たちの手の届くところにあるということ。

私たちが今月お祝いするすべてのことを考えるに当たって、どのようにしたら私たちのグルを最善な形でお祝いできるかと自分自身に問うてみることも賢明なことです。グルマーイの誕生日という機会に彼女をたたえる最も良い方法は何でしょうか。この地球に彼女が生まれたことの意義を感謝する最も良い方法は何でしょうか。彼女の恩恵が私たちの人生に行きわたっていくすべてのあり方、私たちがより良く、親切で、強く、愛すべき人間になるように彼女の教えが助けるすべてのあり方に感謝を言い表し始めるということについてさえも、どのような方法が最も良いのでしょうか。この質問への答えを私が持ち合わせているか、確信は持っていません。少なくともこれを読んでいる皆さんに、きれいに包んで渡せるような、どんな人にも当てはまるような答えはありません。その答えは、ただ、私たちそれぞれが自分自身のために考えてみるということなのかもしれません。

それでも、私にはある考えがあります。もし私たちが、グルマーイが私たちに与えてきたことを実行し、私たち自身と私たちが住むこの世界のためにという以外のどんな理由でもなく彼女が与えてきた教えを実践することで、彼女をたたえたらどうなるのでしょうか。何と云っても、生徒や弟子として —— そして私たちにとって幸運なことに —— 彼女が私たちのために可能にしてくれたことを培い、維持することは私たちの責任なのです。

ですから今月、2018年のグルマーイのメッセージに引き続き取り組むことを強くお勧めします。サツアングを実践し、そして新たな信念、勤勉さ、そして識別力をもって、あなたの内側に存在するサツチャラサという素晴らしい泉との関係を持つ努力をしてください。グルマーイの

メッセージの講話から、今この時期に特に探究心をかき立てるかもしれない考えの一つは、自分自身の内にある良き仲間を焦点を当ててサツァングをする意味を探究することです。

これまでのところ、あなた方の多くが、実際のところ一人きりの時に —— あなただけ、そして、おそらくはあなたの頭上にある青とピンクの空の広がり —— この教えを実践してきたのではないのでしょうか。そして、自分自身と共にいるとはどういうことかをもう少し学んだのではないのでしょうか。それは素晴らしいことであり、本当のところ、サツァングを持つのに必要なのはそれだけなのです。しかし、そのようなサツァングは、これまで長きにわたって伝統的に実践されてきたことや、今月、グルマーイの誕生日をお祝いするためにシッダ・ヨーガ・アーシュラムや瞑想センターにきっと皆さんの多くが集まって実践することと、どのように関係するのでしょうか。探究者たちが崇拜のために共に集うこととしてのサツァングと、どう関係するのでしょうか。

今年のグルマーイのメッセージについてのたくさんの信じられないほどに素晴らしいことの一つは、サツァングのより容易で新しい取り組み方を私たちに示していることに加え、「古典的な」形のサツァングを実践することについて見直すよう私たちに促しているということです。どんな形であれ、一人だけであれ、あるいは他の人と一緒に実践するのであれば、サツァングは大いなる真理を求め、大いなる真理と共にいることです。問題は、その大いなる真理はどこに存在するのか、ということです。あなたが仲間の探究者たちと共にいる時、彼らと共にいて彼らの知恵に学び、共に精神修行を行うことを楽しむことは、疑うべくもありません。しかしながら、他の種類の集まりではないサツァングという活動を定義するものは、その目的が、あなた自身の大いなる自己とより強く交わるために手助けすることだということです。それは、太陽であるスーリャ・デーヴァターの前で瞑想するようなものです。外側のものが内側のものを支え、やがて内側のものが外側のものと混ざり合うのです。それには、優しい努力、ある種の自己認識が求められます。

ですから、自分だけでの、あるいは他の人との、さらにより大きな意図を持ったサツツァングの実践は、あなたがグルマーイの 2018 年の誕生日をどのように祝えるかにおいて重要な役割を持っています。そして今月は毎日、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトはこの実践を支援していきます。毎日、自分自身の心と触れる新しい方法があなたにもたらされるでしょう。

今日のように、あなたはウェブサイト他に何があるか読みましたか。あるいは、こう尋ねるのがよりの確かかもしれません。ここにあるものを体験しましたか。そのリズムを聴き、調子を吸い込みましたか。その言葉に織り込まれた教えを、そうすればあなたの存在と行動そのものを変えることができるという理解をもって、心に受け止めましたか。もちろん私は、グルマーイが私たちのために書いた詩、「その理想の瞬間を待つ」のことを言っているのです。¹

そしてその他にもたくさんのが、これからの日々、数週間にわたりやってきます。ウェブサイトでは、グルマーイについての物語、グルマーイについての熟考、サッドグナ、すなわちグルマーイが6月のすべての日のために選んだ美德の解説が掲載されます。ナイヴェーデヤという、誕生日の日にグルマーイにささげられる神聖な食べ物についての解説があります。そして、グルマーイのメッセージによって触発された、あなたを瞑想へと導く視覚的なダーラナーもあります。

6月24日の誕生日当日とその前後に予期されることは——何人かの方々は「とても」知りたいたらうと推察しますが——、そうですね、それについてはただ注意深く待っていてください。

㊦ シッダ・ヨーガの道のウェブサイトを頻繁に訪れてください。

¹ LINK to Gurumayi's poem, *Waiting for That Perfect Moment*

私たちはここで甘美なアイロニー、ある種のパラドックスにたどり着きました。ヒンディー語で言うハマーリー・グルマーイ、すなわち私たちのグルマーイをたたえようと、私たちはここにいます。彼女をたたえたくて、彼女を称賛する歌を歌いたくて、誕生日の彼女に数え切れないほどの良いことを願いたくて、私たちはここにいます。私たちはたくさんのものをささげたく、たくさんのことを行い、また贈りたいのですが、たくさんのものを受け取るのは実は私たちなのです。私はしばしば、今月を「バースデー・ブリス」と名付けたグルマーイの意図を考えます。「ブリス（至福）」という言葉を言ったり聞きたたりすることで、私たちは至福の体験を呼び起こします。そして私はよりはっきりと分かります。バースデー・ブリスは、その根本として、グルマーイの慈愛の表現です。それは彼女の寛大な心から生まれたものなのです。

グルマーイが長年たびたび歌ってきた、詩聖カビールが書いた美しいバジャンがあります。そのリフレインの部分が、今思い浮かびます。

साधो, सो सद्गुरु मोहे भावै ।
सत्त प्रेम का भर-भर प्याला, आप पिवै मोहे प्यावै ॥

おお愛しい人よ、私はどれほど私のサッドグルを愛しているか、
何度も大なる真理の器を縁まで満たす者を。
この器、私のサッドグルが飲むまさにそれを、
私のグルは私に与える。²

心を込めて
イーシャ・サーデサイ

² CITATION (forthcoming)



© 2018 SYDA Foundation®. 著作權所有。